

## 2012年度 一般社団法人日本社会福祉学会 学会賞（奨励賞） 受賞に寄せて

学会賞審査委員会による審査の結果、2012年度の学会賞が決定し、第60回秋季大会期間中の2012年10月21日に、関西学院大学上ヶ原キャンパスにおいて授賞式が行われました。

学術賞は「該当者なし」となり、奨励賞は単著書部門から、岩永理恵会員（神奈川県立保健福祉大学）と山村りつ会員（同志社大学）の著書が選出されました。

尚、奨励賞論文部門は「該当者なし」でした。



受賞者を囲んでの記念撮影  
（左から白澤会長、山村会員、岩永会員、大橋審査委員長）

### ◆ 奨励賞（単著書部門） 岩永 理恵

受賞作：『生活保護は最低生活をどう構想したか：保護基準と実施要領の歴史分析』  
（ミネルヴァ書房 2011年2月28日刊）

拙著「生活保護は最低生活をどう構想したか——保護基準と実施要領の歴史分析」について2012年度日本社会福祉学会賞（奨励賞）を頂き、恐れ多くも光栄です。学会賞審査委員会委員をはじめ、学会員、学会を支えてくださる皆様に深く感謝申し上げます。拙著をまとめて今日に至るまで各所で支えてくださる方々にも、あらためて感謝申し上げます。拙著には不十分な点が多々あり、受賞にあたって、過分な評価を頂いたと感じています。反省点について、『社会事業史研究』第42号（2012年9月）掲載の文章で言及させて頂いており、ここでは別の観点から述べさせていただきます。

講評を拝見しながら思い出した文章があります。籠山京（1982）「貧乏研究をふりかえて」『社会福祉研究』第30号です。筆者は、戦後30年費やした生計費や生活時間を扱う「貧乏」の研究が「へりくつ」であり、「貧乏から貧乏な人々を解放する具体的な途は見えない」研究であったといいます。〈なぜこれほどまで〉と思わざるを得ないほどの悔恨の念を感じる文章であり、全面的に同意できる話というわけでもありません。とはいえこの文章を思い出したのは、拙著にまとめた研究について少なからず同じ感慨、籠山（1982）を引用すれば、「生活の具体的な改革に手をつける」研究と実践とが、「実は最も役に立つ『貧乏研究』なのではなかろうか」と感じたからではないかと思えます。講評で頂いたご指摘は、このことと関係した研究のあり方、さらにいえば社会福祉の研究としてのあり方が問われたものと受け止めました。

今の私には、「生活の具体的な改革に手をつける」研究を実現する見通しがあるわけではないし、もとより、研究とは「役に立つ」類のものではない気もいたします。このように述べていて厚かましいのですが、さまざまな人に学びながら、研究に取り組む意義を繰り返

返し問いつつ、研究を続けていきたいと考えています。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

◆ 奨励賞（単著書部門） 山村 りつ

受賞作：『精神障害者のための効果的労務支援モデルと制度  
—モデルに基づく制度のあり方—』  
(ミネルヴァ書房 2011年10月20日刊)

この度は、日本社会福祉学会の学会賞・奨励賞という名誉ある賞を頂き、ご推薦いただいた先生方をはじめ、審査委員の先生方、そして学会員の皆様に、厚くお礼申し上げます。

この度の受賞作(『精神障害者のための効果的労務支援モデルと制度—モデルに基づく制度のあり方—』)は、自身の博士論文を基に執筆したものです。その研究は、ほんの僅かながらも自身の PSW としての経験から得た、精神障害者にとっての働くことの意味の大きさとそれを実現したいという思い、一方で、やはり自身の企業での就労経験にも裏付けされたその難しさの認識との葛藤のなかから始まったものでした。そのため、精神障害をもつ方々と彼らを雇用する事業主の方々の両者に対する「当事者インタビュー」を中心として研究を構成し、彼らの思いや主観的体験として現実を大切にしながら精神障害者の就労の現状を明らかにし、必要な制度の在り様を示そうと試みました。

ただ、研究としてはまだまだ不十分な点や課題も多く、更なる改善が必要だと私自身、痛感しております。その意味でも、また博士論文を基にしているという意味でも、本著の出版は私にとって研究のスタート地点であり、この度の受賞も奨励賞という字の通り、「よくやった」というお褒めの言葉ではなく「もっと頑張れ」という励ましの言葉として、今後の研究活動そして実践活動に邁進していきたいと思っております。

最後に、このような未熟な私が博士論文を完成し出版し受賞にまで至ったことは、ひとえに修士課程から丁寧にご指導くださった同志社大学教授埋橋孝文先生や、貴重な知見や見識を与えてくださった先生方のお力添えによるものでした。また先生方だけでなく、一緒に研究に打ち込んだ同僚達からの励ましも無くてはならないものであり、そして何よりも、インタビューにお答え頂いた当事者の方々のご協力があったのものでした。皆様にはこの場を借りて改めて、深くお礼を申し上げます。